京都山城総合医療センター
やましろタイムズ
Yamashiro Times
第78号　令和8年秋

令和８年秋

手術支援ロボット「ダヴィンチX」を導入！！

当院ではこの秋、手術支援ロボット「ダヴィンチX」の導入を予定しています。ダヴィンチは、ロボットが自動で手術を行うものではなく、医師が高精細な3D画像で手術部位を確認しながら、ロボットアームを精密に操作する手術支援システムです。

人の手首のように自由に動く器具を用いることで、体の奥深くや狭い場所で更に繊細な手術操作が可能になります。

当院では外科・泌尿器科を中心に、安全で高度な治療を展開して行きます。今まで以上に診療科が連携し、地域の皆さまにより質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。

医師が操作する「手術支援ロボット」です



© 2026 インテュイティブサージカル合同会社

ダヴィンチXの3つのポイント

01 高精細な3D画像	02 精密なロボットアーム	03 身体への負担を軽減
手術部位を立体的に確認	狭い場所でも繊細に操作	小さな傷での手術を支援

外科・泌尿器科が連携し、安全な導入に向けて準備を進めています。

医療DX

進歩した新たな電子カルテを導入

令和8年8月1日から新電子カルテが稼働しました。診察の順番を待合エリアの大型ディスプレイおよび患者様のスマートフォンで確認できる仕組みや、タブレット問診・WEB問診、電子処方箋などを導入し、サービスの向上を図っております。また、職員認証の強化により個人情報の保護やデータバックアップの充実など、より安心、安全な医療提供のための基盤を整備しました。

院内Wi-Fiについては、これまで電波が届いていなかった回復期リハビリテーション病棟の整備と、外来・病棟の既存エリアの電波強化を進めており、合わせて、医師が院外からカルテを確認して指示が出せる仕組みも年内に導入し、利



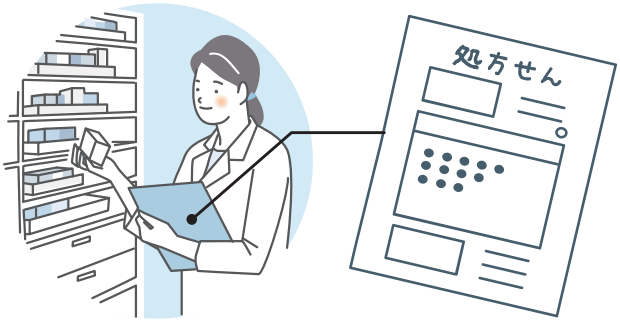
便性と救急対応の質向上につなげる予定です。

国では電子カルテ情報共有サービスの全国運用が今年冬頃に予定されており、当院も早期参加に向けた準備を進めています。新電子カルテを活かし、全国標準に沿ったデジタル化を推進してまいります。

令和8年8月1日から
電子カルテシステム
更新に伴い

院外処方箋に検査数値を記載しておくすりの安全を

令和8年8月1日より、電子カルテシステムが更新されたことに伴い、外来診療における医療の安全と質の向上を目指して、患者さんの処方箋に10項目の臨床検査値を表記することになりました。お薬の効き方は患者さんの状態によりさまざまで、身長、体重から計算される体表面積によりお薬の量が決められることもあります。また腎臓や肝臓の機能によりお薬の量が減量されることもあり、一人ひとりの患者さんのより安全な薬物治療が可能となるように、臨床検査値を処方箋に表記しています。安心してかかりつけの保険薬局にご提出ください。



■ 身長・体重から計算される体表面積
■ 腎臓や肝臓の機能
などにより、お薬の量が増減する場合があります。
より安全な薬物治療が可能となるように、
処方箋に10項目の臨床検査値を表記することになりました。

連帯保証人代行制度で安心を



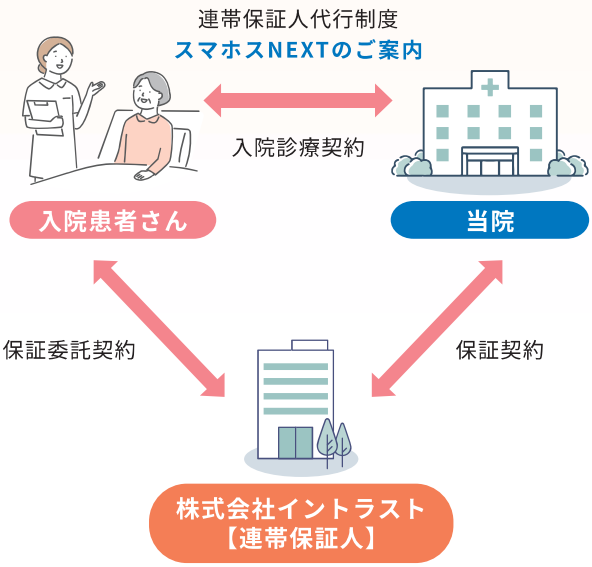
当院では、患者さんが安心して医療を受けられる環境づくりの一環として、令和8年8月1日から連帯保証人代行制度「スマホスNEXT」を導入しました。

これまで当院では、入院の際に入院料の連帯保証人を立てていただいていましたが、患者さんご自身で連帯保証人を探していただく必要が無くなりました。本制度は保証料がかからず、入院申込書（兼誓約書）が保証委託契約書を兼ねますので、お手続きも簡単です。

「保証人をお願いできる人がいない」「家族に負担をかけたくない」という方にも、安心して入院・治療に臨んでいただける環境を整えています。

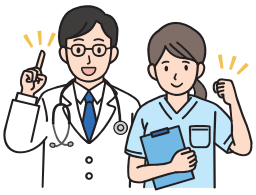
この制度を通じて、患者さん一人ひとりが安心して治療に専念できるよう、これからも患者さんに寄り添ったサポートに努めてまいります。

連帯保証人代行制度関係図

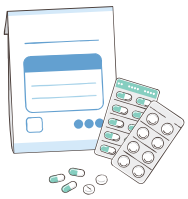


保証内容について

保証範囲	①入院費用自己負担分 ②入院費用実費負担分（個室料、食費など）
保証期間	入院日（保証開始日）より 退院日（保証終了日）まで



炎症性腸疾患（IBD）の診療はお任せください





消化器内科
医師　朝枝（あさえだ） 興平（こうへい）

炎症性腸疾患（IBD）は、腸に慢性的な炎症を起こす病気で、主に潰瘍性大腸炎とクローン病があります。日本でも患者数は増加しており、潰瘍性大腸炎は米国に次いで世界第2位の患者数とも報告されています。小児からご高齢の方まで発症し、腹痛・下痢・血便・便意切迫感・体重減少などを認める方もいれば、無症状で大腸がん検診を契機に診断されることもあります。

当院では、消化器内科医が血液・便検査や内視鏡検査で診断しています。原因は完全には解明されていませんが、近年は新薬が登場し、保険診療で治療の選択肢が広がっています。治療方針は、効果や副作用、生活背景や希望を踏まえ、患者さんと一緒に決めるShared Decision Making（共同意思決定）を大切にしています。

最新の知見に基づく適切な治療と通院により、症状が軽快し、腸の炎症が治まり、病気のない方とほぼ同じ日常生活を送れる方が増えています。炎症性腸疾患でお悩みの方がおられましたら、当院の消化器内科までご相談ください。

登録医紹介

当院では、地域のかかりつけ医との連携診療をすすめています。
「登録医」制度にご協力頂いている地域の医療機関を順番にご紹介させて頂きます。

うえむら内科医院　京田辺市

診療科：内科・消化器科　院長：上村（うえむら） 学（まなぶ） 先生

診察時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	-
16:30～19:00	○	○	-	○	○	-	-

休診日：水曜日午後・土曜日午後・日曜日・祝日

京田辺市で“町のかかりつけ医”として、診察や治療内容をできるだけわかりやすく説明することを心がけ、内科疾患全般について診療しています。また、径鼻胃内視鏡検査もおこなっています。

〒610-0332 京都府京田辺市興戸東垣内85-5
TEL：(0774)79-0114

きわもと泌尿器科クリニック　奈良市

診療科：泌尿器科　院長：際本（きわもと） 宏（ひろ） 先生

診察時間	月	火	水	木	金	土	日
9:30～12:30 （受付 9:00～12:00）	○	○	-	○	○	○	-
17:00～19:00 （受付 16:30～18:30）	○	○	-	○	○	-	-

休診日：水曜日・土曜日午後・日曜日・祝日

泌尿器のトラブルにお悩みの方の不安が少しでもやわらぐよう丁寧にお話を伺い、毎日の生活が快適に過ごせるようお手伝いができればと考えています。気になる症状があれば、まずは当院までお気軽にご相談ください。

〒631-0011 奈良県奈良市押熊町547-1 忍熊ビル3階
TEL：(0742)52-7580

下里医院　精華町

診療科：内科・麻酔科・婦人科　（内科・麻酔科）院長：下里（しもさと） 豪俊（ごうしゅん） 先生　（婦人科）医師：下里（しもさと） 千波（ちなみ） 先生

診察時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00 （受付 8:45～11:30）	○	○	○	-	○	○	-
17:00～20:00 （受付 16:45～19:30）	○	○	○	-	○	-	-

休診日：木曜日・土曜日午後・日曜日・祝日

一般内科診療・一般婦人科診療・特定健診・一般健診・子宮がん検診・発熱外来・各種ワクチン接種等を行っております。婦人科の待合室、診察室は2階に分けてプライバシーの配慮を心がけております。

〒619-0231 京都府相楽郡精華町山田下川原22-2
TEL：(0774)72-1212

「令和8年熊本地震」の活動報告

当院DMAT隊が活動しました



令和8年7月28日16時27分、「令和8年熊本地震」が発生し、発災から3日後の7月31日、京都府から当院へDMAT出動要請が発令されました。DMATとは、災害急性期に活動できる機動性を持った専門的な訓練を受けた医療チームのことで、当院では、平成19年9月に結成以来、今回が3度目の出動となります。

活動期間は令和8年8月1日から8月6日までの6日間で、8月2日より熊本労災病院を参集拠点として活動しました。活動内容は、簡易ベッドの搬送、各施設への飲料水の搬送、スクリーニング（聞き取り調査）、活動本部での電話スクリーニング入力等でした。今回は患者搬送のニーズは少なく、一部の病院支援と物資搬送が主な活動となりました。物資の需要も飲料水から食料、食器、消毒液などの生活物資へと変化していました。炎天下での活動は過酷でしたが、被災地の一助となるよう活動しました。今回の経験と反省点を今後のDMAT活動に活かしていきたいと思います。









災害支援ナースとして活動しました



災害支援ナースは被災地等に派遣され、地域住民の健康維持・確保に必要な看護の提供、看護職員の心身の負担を軽減することを目的に、被災地の医療機関・社会福祉施設・避難所などで看護を行う看護職員のことです。活動中の衣食住は自給自足の活動です。

活動内容は、負傷者への創傷処置や感染症対策、服薬相談や医療チームへの橋渡し、救急搬送支援、災害時要配慮者への対応、被災施設での患者受け入れや重篤患者ケア、褥瘡予防など日常生活援助、介護職との協働、被災スタッフへの心理的支援など多岐にわたります。今回は、高齢者施設へ派遣となり高齢者の心のケア、介護職との協働、スタッフへの心理的支援を中心に活動しました。断水状態が続いている場所もあり給水活動や病状が急変された患者さんの対応も行いました。支援活動に参加するにあたり当院スタッフに負担をかけた部分もありましたが、微力ながらも充実した活動や経験をさせていただいたと思います。





